



永正六年八月廿八日
静喜 新田と評人相可也

賦何色連歌

極下見ぬ秋も

ありまらぬ花消静哉

う露も露希芽

庭乃じりの音家長

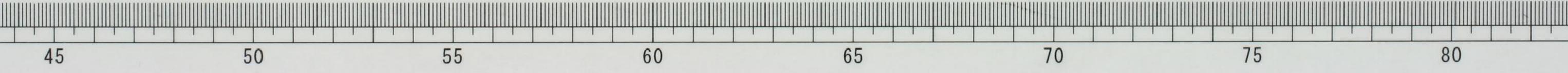
い津更てうらまの

月やとみおん同

ゆく水地がま

袖乃原友秋

うらたのめ山路



賦何色連歌

極下見ぬ秋と

ありまらぬ花清静哉

う露も露希哉

庭乃じりの音 家長

い津更てうらたの

月やとみおん同

ゆく水地がま

袖乃原 友 秋

うらたのめい



うらたけりあふ路

わとけ傳ひ斗田

日はくわぬや

ひそき振入長

月乃くふあやらの

くはたらくま一回

霜了し

たのびく美竹枝

冬華てく一葉乃

空し朝きく長

かくね海りく

鶴乃毛あふ田

志にあふ誰意

ふとせおあふ世も長
花とくくあふ

あぬの世う記

あまのしをけし日

いづろのねとも

老ふたふらん丸

あてし月の

秋のかけ日

ふみてそ露やと

らし都の長

あふちうはらひ

もろ捨の宿日

うはらたなく野々

りなきあのあふて丸

あふぬ日と葉の

誰のしの日

いそふよしの日

御幸の稀の日

御幸の稀に逢ふも
朝日とも言ふも
月乃句のあはれ
山の端よかた人も
花のよき長
人あかくはなれ
雲を来よわ
胡蝶あしたは
たふらふ人多
杉のうねの
杉もしのぶ
秋も色は
丁あかけん
月とらあ
か
候りせは
同

侍り也此は杉本
志るや草海く日
あふくしそふぬ
水くしふくぬ
雷物しは仗結し
侍りて安くむし
冬くしうかきり
人あつ物しと
あらしを春を
たし身は結信て日
水物くちみく
いしうかきり
鶯りたのめく
むしあや嘆あん日
柳ありそ柳
長

部ありては
喜柳の
と柳の
原乃子
庭乃子
うもや
日

うもや
一拜
はり
た
事
うもや
日

竹
山
向
雨
松
は
山
向
竹

海のしほ

竹石ふらむ

紫あしけく唐 四

あらしの風もゆる

はるばる毎よて哉

うらなふあやふし

瀬しそわたり 四

たづねぬとや舟子

志一海の駒みん 長

まよふ 一字

川はらりりみら 四

竹の葉をき

すこのこゝろを

東の君

かきし日のしけ 四

埋火の朝戸

埋火乃朝戸
月之日の也
まけりありは
あしとまはし
いけくしりぬ
あふぬと紅葉
志くもも廉乃
たふしあんな
山陰乃心日地
りあ秋涼て日
かけい乃水此
たふま東の春
寝足あや時乃
うあひらん日
存乃業ありも
りしとては花

うし... 藤原... 花

玉... 乃... くら... 花

う... じ... う... 花... 日

子... 乃... 屋... 花

毎... け... け... 者... 日

如... け... け... 花... 日

た... け... け... 花... 日

花... 乃... 日

い... 乃... 日

と... 乃... 花... 日

か... 乃... 花... 日

う... 乃... 花... 日

あ... 乃... 花... 日

花... 乃... 花... 日

花... 乃... 花... 日

花... 乃... 花... 日

花... 乃... 花... 日

と御守の御守の御守

字のや海と鳥

古葉や信おん日

たのじかかた

言れしゆれ日

かたししそん

門々さした魚そと

みるのちのひの

うき力なりあや日

つみきしと

悲らわむおひ日

しむらうそ

名やいふうね

年月とあらし

んを離面て日

あらし枝行り

うきしゆれ

たうめあちめや
さゆもなごころ
夕朝ふらん 日
とせぬほそり
うらめしきも
ほろろかた
あわさる月清
らけは乃露
玉津と海

静喜 五十一

宗長 五十一

何色連款
八十八

伊地知文庫

文庫20

91

40

45

50

55

60

65

70

75